琵琶湖周航の歌
100周年記念

beyond 2020

加藤登紀子プロデュース

第1回

びわ湖音楽祭

PROGRAM
［保存版］

2017年6月30日（金）

BIWAKO HALL
滋賀県立
芸術劇場
びわ湖ホール
滋賀県大津市打出浜15-1

琵琶湖周航の歌100周年記念事業実行委員会
共催／滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

琵琶湖周航の歌
100周年記念

beyond 2020

PROGRAM ［保存版］

びわ湖なぎ周航

平成29年6月24日（土）～27日（火）

琵琶湖周航の歌100周年記念事業実行委員会

びわ湖音楽祭プログラム

PROGRAM

開　場 〈17：15〉

映像でたどる「なぞり周航」と県民参加の周航の歌 〈17：15～17：45〉

第1部

18：00～18：50

オープニングファンファーレ
立命館守山中学校・高等学校吹奏楽部

開会のごあいさつ
三日月大造（滋賀県知事）

マーチ・シャイニング・ロード
立命館守山中学校・高等学校吹奏楽部

生きているびわ湖
大津児童合唱団・立命館守山中学校・高等学校吹奏楽部

湖国から愛をあなたに
大阪成蹊学園コーラス部

君の笑顔見たいから / Lake Biwa Rowing Song / 魂 ～ユメノミチ～
～ Lefa ～

Take a Trip
草津東高校軽音楽部〈滋賀県高等学校軽音楽部会〉

None of One's
あーもんど（大津清陵高校通信部軽音楽部＆大津高校軽音楽部）
〈滋賀県高等学校軽音楽部会〉

第2部

19：05～20：35

百歌百会 / 時には昔の話を / この空を飛べたら
加藤登紀子

島唄
加藤登紀子・宮沢和史

風になりたい / 世界でいちばん美しい島
宮沢和史

永遠(とわ)に - a cappella - / 真赤な太陽
ゴスペラーズ

花は咲く
加藤登紀子・ゴスペラーズ

愛の讃歌 / 終りなき旅
加藤登紀子

百万本のバラ物語
加藤登紀子withひまわり合唱団・京大グリークラブ

閉会のごあいさつ
山極壽一（京都大学総長）

フィナーレ
「琵琶湖周航の歌」大合唱

私と琵琶湖

加藤　登紀子

私の曾祖父の出身地が琵琶湖畔の守山市。
そこから京都に出て呉服屋を起こした近江商人。
琵琶湖は私の故郷です。

比叡山から見る夜明けの琵琶湖
朝日の輝きが湖に映る風景
撮影：西山秀子

1950年　私と琵琶湖の思い出の一ページ目は、小学校一年の夏休み、京都上賀茂の子供会のバス旅行で行った近江舞子の海水浴。前日の夜になって、私ひとりの参加に父が猛反対し、そのお陰で母がついて来てくれることになり、楽しい楽しい一日になったのでした。

近江舞子の砂浜は広々と真っ白で、海と同じようにザブンザブンと波が寄せていました。いつも忙しそうな母がのびのびと水着姿で、沖の方まで泳いで行ってしまった事や、泳げない私の手を取って泳がせてくれたこと、空が晴れて美しかったこと、何もかもが夢のようでした。

1971年　アルバム「日本哀歌集」の一曲として「琵琶湖周航の歌」をレコーディング。まだ結婚はしていなかった藤本敏夫の十八番で、父、幸四郎の愛唱歌でもあったこの歌が、歌手加藤登紀子の重要な歴史に加わったのです。「知床旅情」のヒットの後、「少年は街を出る」のB面でシングルリリース。たちまちヒット曲になりました。

が、それを受けて京大ボート部のOB会に「琵琶湖周航の歌」の「本当の」歌詞やメロディーを聴かせたい、と呼ばれたのです。結果は「俺の歌こそが本物だ!」と熱唱する人たちが乱闘になりそうな雲行き(笑)。世代ごとに少しづつ変化して来た、歌の移り変わりの一端を知ることになりました。

1984年　アメリカの大スター、ジョン・デンバーさんを招いて、南こうせつ、加藤登紀子が参加、7月27日から31日まで開かれた第一回世界湖沼会議の前夜祭として開かれた琵琶湖畔の野外コンサート。

三人が揃って歌った「琵琶湖周航の歌」のライブ映像がYoutubeで見られます。ジョンの伸びやかな歌声が素晴らしいです。

撮影：西山哲也

ジョンはその後、97年12月12日に自家用飛行機の事故で亡くなっています。本当に残念。誕生日が私の5日後、1943年12月31日。琵琶湖で歌った時、二人とも40歳でした。

2001年　11月11日から16日まで大津プリンスホテルで開催された第九回世界湖沼会議の一環として開かれた「生きている琵琶湖」発表会。

この一年間、湖西、湖北、湖東をめぐり、沖島に滞在し、子供たちとも交流する中で作詞作曲した「生きている琵琶湖」。小学生を中心にコーラスで歌ってもらい、楽しいイベントになりました。

因みに開催場所になった旧琵琶湖ホテルは、両親が1935年昭和10年10月10日に新婚初夜を過ごした思い出の場所。二人は翌日、京都駅から満州のハルビンへと旅立ったのです。

2009年　7月9日、今津市にある「琵琶湖周航の歌、資料館」を訪問。作詞した小口太郎、この曲の元になった「ひつじ草」の作曲者、吉田千秋の詳しい展示が心に残りました。

1897年諏訪に生まれ、26歳で他界した天才的な物理学者、小口太郎。1895年新潟で生まれ、24歳の若さで結核のため早世した吉田千秋。二人は生前、一度も会う事がなかったけれど、ひとつの歌で偶然つながったのです。小口が「琵琶湖周航の歌」の詩を書いたのが1917年大正6年。その時すでに広く歌われていた「ひつじ草」のメロディで歌われ、あっという間に広まったというのです。本当は曲も作りたかった小口は、悔しがったとも、実は別のメロディを作ったとも言われています。私が歌い始めた頃も含め、この事が判明する1993年までは小口太郎作詞作曲とされてきました。

当時の若者たちが、音楽家でなくても歌を作り、ヨーロッパの文化や文明を積極的に先取りし、日本の社会に根付かせていった近代日本の創生期、明治から大正を生きた二人の若いロマンが込められた歴史です。ぜひ資料館を訪ねて下さい。

2010年　5月21日、加藤登紀子45周年コンサートの幕開けを「びわ湖ホール」で開催。オープニングで「琵琶湖周航の歌」を歌った。

2010年　瀬田のボートレース場で、東大女子ボート部OGとしてレースに参加。京大女子ボート部OGと対戦し勝利!（拍手）

2011年　2月11日。10年 間 のUNEP親 善大使としての活動を締めくくるイベントを滋賀県琵琶湖博物館で開催。それというのも日本でのUNEPの活動の一つの拠点が、琵琶湖博物館の向かい側にあるILECという研究機関の中にあったからです。私のUNEP活動を琵琶湖に支えられた事、感謝でいっぱいです。

2016年　11月、比叡山延暦寺に投宿。太陽が湖面に映る夜明けの瑠璃光を拝み、延暦寺の根本中堂や本堂を見学。日本仏教はここから育った事がよくわかりました。小学校時代、上賀茂に住み、賀茂川を渡るたびに、比叡山を眺めて育ったので、比叡山こそ故郷の山。延暦寺参拝はこの時が初めてでした。貴重な体験。

2017年　「琵琶湖周航の歌」百周年記念で、「びわ湖音楽祭」開催します。お楽しみに!